

3月は勝負

1. シロハラの餌探し

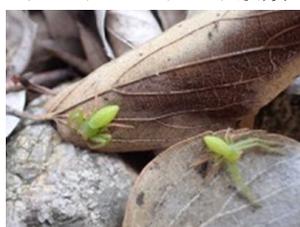
雪も溶けた林の地面をカサカサいわせて動き回っているのがシロハラです。ツグミと同じ大きさですが、背側が茶褐色、腹側は薄い灰褐色で、飛ぶときには白っぽい腹部が目立つのが種名の由来です。暗い樹下で目立たない色彩です。



シロハラ



サンインマイマイ破殻

落ち葉の下の
ワカバグモ

秋に渡ってきた頃は目立ちませんが、今は存在感があります。その理由は、4月中旬までに北へ旅立つためのエネルギー蓄積です。落ち葉をくちばしで掻き分けて餌を探し、人が近づいてもなかなか逃げません。

どんなものを探しているのでしょうか。シロハラに代わって葉を掻いてみました。ミミズかなと思っていたのですが、多く出たのはムカデの仲間とクモでした。ミミズは深いところに入っているです。クモは落ち葉の裏に張り付いています。後2回脱皮すれば成体になるくらいの大きさで越冬していますからかなり重要な餌となっているようです。マイマイの割られた殻もありました。これは食べでがあります。

チョウやガの幼虫が落ち葉の下で越冬するものがありますが、寒さからは守られても安全な場所ではないようです。

2. 芽出しの順番

落葉樹が活動を開始する時期です。まだ寒さは残りますが、日照時間でみれば3月下旬は9月下旬と同じです。もう光は十分強くなっています。早く葉を広げて光合成に励みたいはずですが、どのような環境に生育し、どのような性質の樹が早く展葉するのでしょうか、注意してみましょう。



イロハモミジの新芽

打吹山で一番早いのはイロハモミジです。個体差はありますが、他の樹種よりもかなり早く赤い新芽を伸ばします。カエデの仲間が皆早いものではありません。近くにあるオオモミジ、コハウチワカエデ、ウリカエデはずっと遅いのです。ミヤマガマズミとコバノガマズミも打吹山では同所に生えていますが、1週間以上差があります。種による違いも意味があるはずですが。



ミヤマガマズミ



コバノガマズミ

(同じ日時、場所での新芽の比較)

イロハモミジに次ぐ種はオオバヤシャブシ、ナガバノモミジイチゴ、クロモジ、ミヤマガマズミです。前2種は日当たりの良い場所に生えますが、後2種は林下の低木です。日当たりは関係あるのでしょうか、同じ種を異なる場所で、また高木と低木で違いがあるのか較べてみてください。

落葉樹林内の低木は、高木が展葉する前に葉を広げてしまう方が有利です。打吹山のような常緑樹林では常に林床の光は弱いのですが、クロモジの主な生育地は落葉樹林内ですし、ガマズミは明るい二次林です。

また、花芽が形成された状態で越冬する木は展葉と同時に開花します。果実の成長には早くに葉が活動を開始することが競争戦略なのでしょう。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2021)